



さとう まこと
佐藤 真

学校部活動を地域展開するにあたっての課題解決を！

動画で一般質問をご覧ください



市の取り組みの現状は

答弁 令和10年度秋実施に向けて説明会やアンケートを実施

問 地域展開には子どものニーズ把握が必要だが、どのように把握しているのか。

答 実施したアンケート調査では、現在の部活動にない種目を希望する声が一定数見受けられた。ニーズに応えられる活動の場や指導体制を整えることが課題であり、大会参加の他に様々な活動の連携などモチベーションを高める工夫ができるよう検討する。

問 指導者を確保していく上で、どのような課題があると認識しているか。

答 質・量ともに十分な指導者の継続的な確保、安全管理体制の構築であると認識している。

スポーツ、文化団体等の幅広い人材を活用していくこと、謝礼金や保険、研修制度の整備など安心して指導できる体制づくりも大変重要である。

問 家庭の経済状況によって経験格差が生じないようにはする必要があるが、どのような保護者負担が生じるのか、また経済的に困窮する世帯への支援をどのように行うのか。

答 会費や送迎負担が生じることは大きな課題であると受け止めている。家計への過度な負担とならないよう、また経済的な理由で活動を断念することがないように、慎重に検討していく。



よこお たかふみ
横尾 貴文

金利上昇局面には「未来に向けて育て増やす財政」という視点が必要

動画で一般質問をご覧ください



基金運用方針の見直しは

答弁 社会動向を注視し、原則を踏まえた運用に努める

問 金利上昇と物価上昇が進む中で、預金中心の基金運用の見直しや債券活用、運用基準の整備についての考えは。

答 収益性の追求よりも安全性と確実性を最優先に基金は運用すべきであるため、現時点で預金中心の方針を大きく見直す考えはない。

問 現状の基金ごとの個別運用から一括運用への転換や、運用益が地方交付税算定上持つメリットについての考えは。

答 基金ごとに目的や必要となる時期が異なるため個別運用を基本としており、一括運用の導入予定はない。また、運用益の制度上の利点は認識

しているが、直ちに大きな財政効果につながる状況にはないと考えている。

問 今後の基金管理を考えるには「守りから攻めの財政」、「未来に向けて育て増やす財政」という視点が必要と考える。そのためにも必要な専門人材の育成や外部知見の活用についての考えは。

答 研修や情報収集の機会を通じて職員の知識向上を図り、必要に応じて外部の専門的知見も参考にしながら、適切な基金管理の在り方を研究していく。今後の財政運営においては守りだけでなく、効率性や将来世代への責任も意識する必要があるという視点は重要である。